

三田の「蔵さん会式」が行われました

去る4月5日(土)、三田区の蔵王権現社(ざおうごんげんしゃ)において会式が行われました。蔵王権現社は、三田集落の中でも高い位置にあり、蘭島(あらぎじま)をはじめ三田・清水の景観を一望することができる大変見晴らしの良い場所にあります。蔵王権現は、修験道の開祖とされる役小角(えんのおづの)が感得した日本独自の仏に対する信仰で、地元では「蔵さん」と呼ばれ厚く信仰されています。地元には伝わる記録によると、天正年間(1573〜1592年)の再建と伝わり、現在の社殿は文政9年(1826年)の建立で、本殿は風食によって色あせていますが、彩色の痕跡がよく残っており、建てられた当時は大変きらびやかな社殿であったと考えられます。

会式の当日は、伊勢音頭がうたわれた後、午後1時頃から集会所を出発し、3mほどの餅花竿(もちばなごさお)を先頭に、蔵王権現の幟(のぼり)、お供えの餅を担いだ



人々が行列をなして、神社までの坂道をゆっくりと練り歩きました。鏡餅を神社へ奉納し、ご祈祷の後、午後3時頃よりお供えの餅を投げる大餅投げが行われ、会式終了後は家の魔除けとして餅花が参拝者の方々に配られました。当日は、テレビ取材や和歌山市内からの参加者もあり、活気のある会式となりました。



三田区では、棚田サミットや重要な文化的景観の選定が契機となって、区民の皆様によって地域が見つめ直され、地域を活性化する取り組みが始められています。その取り組みの一つとして、神社から発見された昔の御札の版木(はんぎ)をもとに、新たな御札が作成され、参拝者の方々に配られています。

蔵王権現社は、参拝すれば不思議と失せ物が見つかることで知られています。物がなくなつて出てこない方は、一度訪れてみてはいかがでしょう。

